

建設部会長報告

第3回建設部会は、11月28日ホール80において、部会員ら22名が出席し開催しました。

今回は、秋田県内で多くのリノベーション実績を上げている㈱See Vision 代表取締役の東海林諭宣氏と、リノベーションスクール開催を核とした都市・エリアの再生を全国で行っている㈱リノベリング取締役の青木純氏をゲストに招き、「リノベーション等による空き家・空きビルの利活用事例の紹介」をテーマに懇談しました。

初めに、東海林氏が秋田市南通にある築50年の長屋をリノベーションした「酒場カメバル」やその正面に造った「サ・カ・ナ カメバル」のほか、ビル一括借り受けリノベーションを行ったヤマキウビルの事例を紹介しました。「自分たちが楽しく生きて行くために、小規模で個性的なお店がたくさんある楽しいまちにしたい。100㎡の小さいエリアを盛り上げて、まち全体の温度を上げていく」と述べられました。現在は、ヤマキウビル駐車場に隣接している240坪の倉庫のリノベーションを計画中で、店舗や事務所のテナントが入るほか、中央部にキッズスペースのあるパブリックスペースを配置予定とのことです。



次に、青木氏が空き家・空きビルのリノベーションを通じて、まちづくりを行っている福岡県北九州市小倉や山梨県甲府市の事例のほか、東京都豊島区で南池袋公園を再生させた取組等を紹介しました。「空き家、空き店舗は宝物。空き家はまちのポテンシャル。空き店舗だらけのまちは変化の可能性に満ち溢れている。そこで、『戦略的都市マネジメント政策』のもとに縮退エリアの課題解決と波及効果を与えるリノベーションプロジェクトを次々に生み出す『リノベーションスクール』を開催し、対象案件の実事業化の推進役を『民間自立型まちづくり会社（家守会社）』が担い、リノベーションまちづくりを行う。リノベーションは、入居者がほぼ確定してから投資するためリスクが最小限で、また5年以内に回収できる投資しかしないため利回りが高い。今あるものを活かし、新しい使い方をしてまちを変えていくことが重要。まちのコンテンツづくりを通じ雇用を創出し、まちの担い手をつくり育てていきたい」と述べられました。



以上が建設部会からの報告です。